



② 資料4 7ページ

【指摘】

重油の規格・種類であるA重油、B重油及びC重油の炭素含有量はそれぞれどれくらいなのか。この集計表を見ると、計としてA重油、B重油及びC重油の区別なく燃料消費量を出しており、これを基に平均した燃料消費量を算出しているものと考え

る。  
毎月の燃料消費量に係る炭素含有量を計算しないまでも、集計表の欄外等にA重油、B重油及びC重油の炭素含有量を注記してもらえると統計利用者の利便性が図られるのではないかと考える。

[回答]

燃料消費量については、現行の集計表においてA重油、B重油及びC重油ごとに区分して公表しているところである。

重油の規格については、JIS規格（別添参照）により規定されており、A重油、B重油及びC重油はそれぞれJIS K 2205の1種、2種及び3種として規定されている。また、1種（A重油）については硫黄分質量により1号若しくは2号に分類され、3種（C重油）については、動粘度や水分容量等により1号から3号に分類されている。残留炭素分質量については、A重油及びB重油において規定されているが、C重油は規定されていない。

各重油の主な特性となる規定を抜き出し記載するとしても、C重油の残留炭素質量の規定がなされておらず、ご指摘のあった趣旨に添えないことから、現行のままとしたいと考える。

## 重油のJIS規格 (K2205-1991抜粋)

## 重油

重油の種類は、動粘度により1種(A重油)、2種(B重油)及び3種(C重油)の3種類に分類する。更に1種は硫黄分により1号及び2号に細分し、3種は動粘度により1号、2号及び3号に細分する。

また、品質は、内燃機関用、ボイラー用及び各種炉用などの燃料として適当な品質の鉱油であって、次の規定に適合しなければならない。

種類	性状		引火点 ℃	動粘度 (50℃) cSt (mm <sup>2</sup> /s)	流動点 ℃	残留炭素分 質量%	水分 容量%	灰分 質量%	硫黄分 質量%
	反応								
1種	1号	中性	60以上	20以下 (20以下)	(注) 5以下	4以下	0.3以下	0.05以下	0.5以下
	2号	中性	60以上	20以下 (20以下)	(注) 5以下	4以下	0.3以下	0.05以下	2.0以下
2種		中性	60以上	50以下 (50以下)	(注) 10以下	8以下	0.4以下	0.05以下	3.0以下
3種	1号	中性	70以上	250以下 (250以下)	—	—	0.5以下	0.1以下	3.5以下
	2号	中性	70以上	400以下 (400以下)	—	—	0.6以下	0.1以下	—
	3号	中性	70以上	400を超え1000以下 (400を超え1000以下)	—	—	2.0以下	—	—

注)1種及び2種の寒候用のものの流動点は0℃以下とし、1種の暖候用の流動点は10℃以下とする。